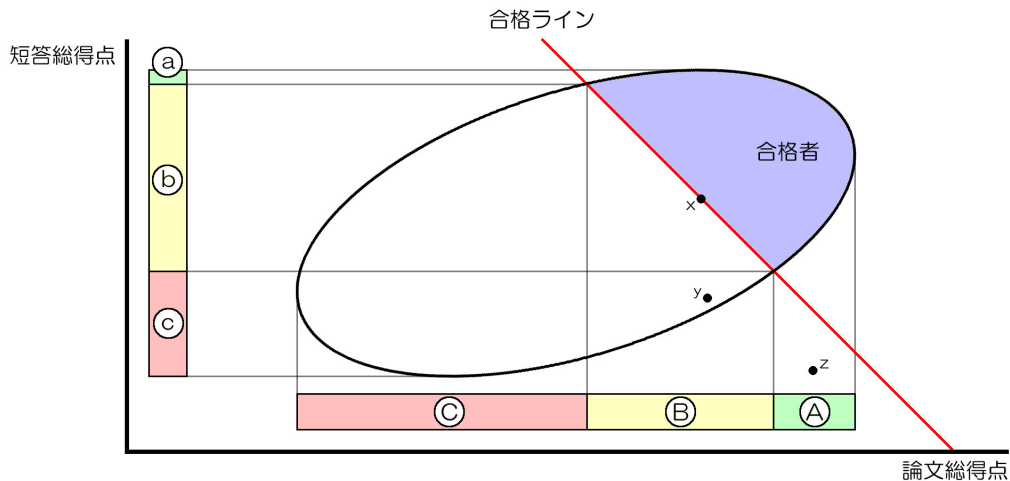


総合評価の方法について（イメージ）

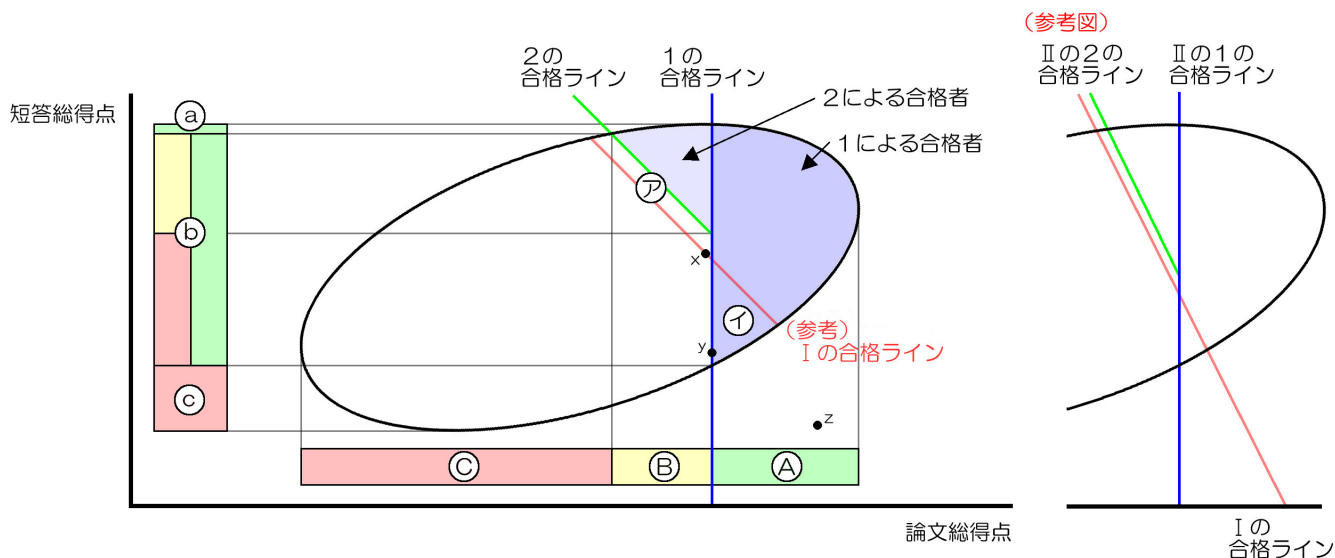
表について

- ・ 短答式試験の総得点を縦軸，論文式試験の総得点を横軸とし，その合計点の集合を円で表す。
- ・ 短答式試験及び論文式試験の成績分布は，正規分布に近似するものと仮定する。
- ・ 短答式試験の総得点と論文式試験の総得点には，一定の相関があるものと仮定する。

I 短答総得点と論文総得点を加算した点数で合否を判定



- II
1. 論文総得点の一定点以上は，合格
 2. 論文総得点の一定点以下は，短答総得点と論文総得点を加算した点数で合否を判定



I と II の相違点など

- ① それぞれの試験で上位数%に入る上位群（表中A，a）は，I，IIともに，結果として他の試験の成績にかかわらず合格。同じく下位群（表中C，c）は不合格。
- ② IとIIで合否が大きく相違するのは，中位群（表中B，b）。
- ③ IとIIにより合否が入れ替わる群は，IIの表中，合格ラインに囲まれたアとイの部分。
- ④ 仮に表中x，yのように，論文総得点はyがxより1点高く，短答総得点はxがyより10点高い（よって，両試験の合計点はxがyより9点高い）二者がいた場合，合格ラインによっては，Iではxが合格し，IIではyが合格することとなる。
- ⑤ 表中のzのように，短答総得点は下位群，論文総得点は上位群となる者がいる場合，Iでは不合格となるが，IIでは合格となる。
- ⑥ 短答総得点と論文総得点の得点の重みに傾斜をつける場合，IとIIの差異は小さくなる。（IIの参考図参照，同図は，短答総得点を0.5倍した時のイメージ。）